

社会系教科教育学会 (ESSDRA)

Education in the Social Studies Department Research Association



第 29 回 研究発表大会プログラム

- 日 程** 2018年2月11日(日)・12日(振替休日)
- 場 所** 京都教育大学藤森キャンパス A棟・C棟・F棟 (共通講義棟)
- 主 催** 社会系教科教育学会
- 後 援** 国立大学法人 京都教育大学, 兵庫教育大学
京都府教育委員会, 京都市教育委員会
兵庫県教育委員会, 神戸市教育委員会, 加東市教育委員会

2018年1月16日

会員の皆様へ

社会系教科教育学会長 米田 豊

大会実行委員長 水山 光春

2017年度

社会系教科教育学会 第29回研究発表大会（京都）（第二次案内）

大会テーマ：「社会系教科は新学習指導要領にどう向き合うか」

厳寒の候、皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、2017年度第29回社会系教科教育学会研究発表大会を、下記の要領で開催することとなりました。つきましては、会員の皆様方はもとより、会員以外の方々にも広くお呼びかけいただき、多数ご参加くださいますよう、ご案内かたがたお願い申し上げます。

I 開催要項

1 日程 2018年2月11日(日)・12日(振替休日)

第1日(2月11日)

9:00	9:30	12:00	13:30	16:20	17:20	
受付	自由研究発表 I	理事会 昼食	シンポジウム	総会	移動	情報交換会

17:30 19:30

第2日(2月12日)

8:30	9:00	12:00	13:00	16:00	
受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究発表 (課題研究 I・II)		

2 場所 京都教育大学藤森キャンパス A棟・C棟・F棟（共通講義棟）
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1

3 主催 社会系教科教育学会



4 後援 国立大学法人 京都教育大学，兵庫教育大学
京都府教育委員会，京都市教育委員会
兵庫県教育委員会，神戸市教育委員会，加東市教育委員会

Ⅲ 内容

第1日 2月11日(日)
自由研究発表Ⅰ (9:30~12:00)

【第1分科会】 F12教室

司会者 東北大学 谷口 和也 国立教育政策研究所 二井 正浩

- (1) 9:30 主体的に、選択・判断できる授業づくり
ー選択・判断できる教材とはー
立命館宇治中学校・高等学校 河原 紀彦
- (2) 10:00 合意形成のための多元的選択肢を構築する歴史学習論
ー米国社会科教育学者の思想と実証研究手法を手掛かりにしてー
愛知教育大学大学院・愛知教育大学附属岡崎中学校 小栗 優貴
- (3) 10:30 生徒の自我関与を図る高校日本史Aの授業づくり
ー「妖怪」を用いてー
佐賀県立佐賀東高等学校 堤 敏浩
- (4) 11:00 社会参画学習としての歴史学習
ー明治期の美術政策を教材としてー
文教大学 吉田 正生
- (5) 11:30 能動的市民性を培うバックキャスティング学習
ー“Geography@Work”の場合ー
福山平成大学 西川 京子

【第2分科会】 F16教室

司会者 大阪福祉科学大学 馬野 範雄 同志社大学 金子 邦秀

- (1) 9:30 政策批判力を育成する小学校歴史学習の開発
ー単元「田中正造」を事例としてー
兵庫県加東市立滝野東小学校 吉川 修史
- (2) 10:00 産業間の関連の習得を意図した小学校社会科授業開発のための基礎研究
ー生産から消費までのプロセスに着目した単元「回転寿司チェーン スシロー」を事例としてー
宝塚市立丸橋小学校 西尾 諭
宝塚市立長尾小学校 岩下真一郎
姫路市立旭陽小学校 下野 哲宏
三木市立緑が丘東小学校 薬内 要
西宮市立名塩小学校 松浪 軌道
神戸市立伊川谷中学校 魚谷 亮太
兵庫教育大学 山内 敏男
兵庫教育大学 米田 豊

- (3) 10:30 児童の「学びを豊か」にするための社会科授業開発
 ーグローバル時代をきりひらく資質・能力の育成に向けてー
 広島大学附属東雲小学校 新谷 和幸
- (4) 11:00 持続可能な社会の形成者を育成する小学校社会科授業開発研究
 ー第6学年「オリンピック・パラリンピックと日本」の場合ー
 兵庫県三木市立平田小学校 末永 琢也
- (5) 11:30 概念形成の視点に基づく小学校地図学習の改善
 ー空間軸形成を意図した方位指導の視点からー
 畿央大学 小谷恵津子

【第3分科会】 F22教室

司会者 同志社女子大学 藤原 孝章 同志社大学 児玉 祥一

- (1) 9:30 グローバルな課題に対する子どもの切実性向上に関する研究
 ーグローバル化の視点を取り入れた社会科授業に注目してー
 岡山大学教育学部 高畑 昌志
 岡山県真庭市立湯原中学校 重信 謙太
 岡山大学 桑原 敏典
- (2) 10:00 未来予測力を育成する小学校社会科授業に関する研究
 ー時間のマルチ・スケールアプローチの視点からー
 大阪府東大阪市立花園北小学校 澁谷 友和
- (3) 10:30 ESDの概念を取り入れた栽培学習の授業実践
 ー地域の特産である「自然薯」を教材としてー
 大阪キリスト教短期大学 河野 崇
- (4) 11:00 小学校第6学年社会科政治学習における「子どもの貧困」問題の単元開発
 ー新「学習指導要領」を踏まえてー
 西九州大学 松井 克行
- (5) 11:30 持続可能性を追究する社会科ESD学習の内容構成
 ー単元「青空を取りもどした北九州市」の場合ー
 京都女子大学 松岡 靖

【第4分科会】 F26教室

司会者 大阪体育大学 岡崎 均 和歌山大学 岩野 清美

- (1) 9:30 商品価格の決定因を取り上げた小学校社会科授業の開発
 ー児童の経済認識の発達を視点としてー
 島根大学大学院 安達 和哉
- (2) 10:00 小学校社会科歴史学習におけるシステム論的視点の検討
 兵庫教育大学大学院 池田 雄基

- (3) 10:30 小学校社会科「さぬきうどんの教材開発2」
追跡研究－第3学年「工場の仕事」の実践から－
香川県宇多津町立宇多津小学校 河野 富男
- (4) 11:00 生活科における児童の社会参画
－民間教育研究団体の授業実践を手がかりに－
関西学院大学 峯岸 由治
- (5) 11:30 小学校における環境教育の日中比較研究
－社会科系教科書記述の分析に基づいて－
岡山大学 桑原 敏典
岡山大学大学院 陳 北辰

【第5分科会】 A1教室

司会者 鳴門教育大学 西村 公孝 熊本大学 藤瀬 泰司

- (1) 9:30 グローバル社会に対応した価値学習
－〈公民的分野〉国際貢献に関する「価値判断」の妥当性の検討を通して－
岐阜県可児市立蘇南中学校 小川 隆行
- (2) 10:00 地域社会形成主体を育成する中学校社会科地理的分野の授業開発
－記号論的読みを活用した景観読み取りを通して－
兵庫教育大学大学院 佐竹 弘佑
- (3) 10:30 うそっ！ホント！ネタからディープラーニング
－沖縄の地理学習を中心に－
立命館大学 河原 和之
- (4) 11:00 「社会」と議論する社会形成のための授業開発
－ゲスト・ティーチャーとともに作り出す公共空間の可能性－
岐阜工業高等専門学校 空 健太
岐阜大学 田中 伸
岐阜大学大学院 加藤 雅也
- (5) 11:30 〈境界〉を考える社会科授業
－主体的な価値判断能力育成のための教材構成－
岡山理科大学 紙田 路子

【第6分科会】 A3教室

司会者 四天王寺大学 中本 和彦 (前)兵庫教育大学 原田 智仁

- (1) 9:30 多文化教育の視点を生かした地理の単元開発研究
－日本における在日外国人との文化摩擦－
大阪府立交野支援学校四條畷校 松尾 光雄
- (2) 10:00 社会・地理歴史科教育における略地図の有効性
－新学習指導要領とGIS、地理授業－
甲南大学 伊藤 善文

- (3) 10:30 世界遺産に着目した世界史教育内容開発
 — 「明治日本の産業革命遺産」を教材として—
 阪南大学 祐岡 志
- (4) 11:00 オーストラリアの歴史教育におけるコンピテンシーの変化
 —ニュー・サウス・ウェールズ州の「現代史」新旧シラバスを比較して—
 近畿大学 下村 隆之
- (5) 11:30 イギリス関連政府の地理教育カリキュラムにみる地理的概念の比較研究
 宮城教育大学 吉田 剛

社会系教科教育学会・理事会（12:00～13:30）

1号館A棟 共通室1A1

シンポジウム（13:30～16:20） 大講義室I

大会およびシンポジウムのテーマ

社会系教科は新学習指導要領にどう向き合うか

平成29年3月に学習指導要領が発表され、向こう約十年の教育の方向性が示された。新学習指導要領が目ざす社会科のコンセプトは「社会的な見方・考え方を働かせ、公民としての資質・能力の基礎を育成する」である。当然のことながら今後は、「見方・考え方をどのように働かせるか」「資質・能力をどのように育てるか」など、学習指導要領の文言を取り込んだ実践的な研究が中心となる。そして、それらは見方・考え方や資質・能力の精緻化へと向かっていくことになるだろう。

本大会（シンポジウム）では、このような研究の動向を踏まえながらも、新学習指導要領の発表からほぼ一年が経過した時点で、もう一度、社会系教科にとって新学習指導要領が持つ意味を捉え直してみたい。それが主題を「～をどのように実現するか」ではなく、「～にどう向き合うか」とした意味である。また、そこに、学会として研究大会を開催する意義があるとも考える。

そこで、本シンポジウムでは、上記コンセプトの個別の文言はさておいて、理論研究、カリキュラム研究、実践研究、教員養成の四つの側面から新学習指導要領をメタに捉え直すことを試みる。すなわち、理論研究においては「社会科教育の理論の蓄積の視点から」、カリキュラム研究においては「社会科を含むより横断的・縦断的なカリキュラム研究の視点から」、実践研究・教員養成に

においては「学校現場や教員養成を含む実践的研究の視点から」、新学習指導要領をどのように捉え直せばよいかをシンポジストに論じていただくことを通して、上記主題に迫りたい。

さらに、課題研究においては、シンポジウムの議論を再度、実践に引き戻し、どのように具体化させていけばよいかを二つのテーマをもとに検討したい。

コーディネーター

京都教育大学 水山 光春

兵庫教育大学 福田 喜彦

発表者

目標と問いに基づいて「見方・考え方」を使いこなす

－社会科の分化・分科傾向に向き合うために－

広島大学 草原 和博

新学習指導要領と教科教育の課題

－資質・能力ベースのカリキュラム改革をどう捉えるか－

京都大学 石井 英真

教職課程コアカリキュラムと社会科教育法

同志社大学 田中 曜次

社会的な見方・考え方を深める中学校社会科の実践

－紛争解決をめぐる合意と公正の検討－

お茶の水女子大学附属中学校 寺本 誠

社会系教科教育学会・総会（16：20～17：20） 大講義室 I

情報交換会（17：30～19：30） 大学会館 生協食堂

第2日 2月12日（月）

自由研究発表Ⅱ（9：00～12：00）

【第7分科会】 F12 教室

司会者 奈良教育大学 岩本 廣美 文教大学 吉田 正生

- (1) 9:00 小学校社会科学習を貫く「安心・安全（安定）」の概念
－各学年・各単元で見ると－
静岡市立安東小学校・愛知教育大学大学院・静岡大学大学院 大西 洋
- (2) 9:30 幕末期の授業づくり
－将軍家茂上洛図の教材化－
奈良県平群町立平群中学校 森口 洋一
- (3) 10:00 歴史学習における「思考力」評価の研究
－児童の振り返りを手がかりに評価フレームで書く力をつける－
東京都八王子市立第十小学校・日本体育大学大学院 橋本 隆生
- (4) 10:30 「主体的な学び」の実現に向けた評価と指導の一体化についての実践的方法
－新学習指導要領と児童の振り返り、座席表を手がかりに－
堺市立福泉上小学校 丹後 靖史

- (5) 11:00 パフォーマンス評価から構成する中学校社会科単元設計
 —世界の諸地域学習「アジア州」の単元開発—
 東京都府中市立府中第四中学校 岩淵 公輔
- (6) 11:30 総合的な学習の副読本作成による地域協働型教材開発と評価・改善に関する実証的研究
 —第6学年「『ふるさと宇治』の魅力大発信」を事例に—
 京都文教大学 橋本 祥夫
 京都文教大学 澤 達大

【第8分科会】 F16 教室

司会者 立命館大学 角田 将士 京都学園大学 池田 恭浩

- (1) 9:00 資質・能力を育成し、持続可能な社会づくりに向かう態度を形成する授業の開発
 —中学校社会科地理的分野「世界と比べた日本の地域的特色～人口の特色～」の場合—
 富山大学人間発達科学部附属中学校 龍瀧 治宏
- (2) 9:30 「見方・考え方」を働かせて深める経済学習実践
 —評価問題とつなげての省察—
 大阪府大阪狭山市立南中学校 奥田修一郎
- (3) 10:00 社会的な見方や考え方を活用した思考力の育成
 —小学校社会科授業における防災教育を事例として—
 愛知県弥富市立日の出小学校 植田 真夕子
- (4) 10:30 複数の Entry Point を用いた生徒の主体的学習を促す研究
 —中学校社会科地理的分野「日本の諸地域」を例に—
 兵庫教育大学大学院 城谷 尚吾
- (5) 11:00 社会科固有の「読解力」形成のための授業開発研究（V）
 —第5学年単元「わたしたちのくらしと自動車工業」の場合—
 兵庫教育大学 關 浩和
 兵庫教育大学 吉水 裕也
 兵庫教育大学 山内 敏男
 兵庫教育大学 福田 喜彦
 兵庫教育大学附属小学校 吉田 繁之
 兵庫教育大学附属小学校 森 清成
 兵庫教育大学附属小学校 土松 拓生

【第9分科会】 F22 教室

司会者 日本体育大学 池野範男 京都女子大学 松岡 靖

- (1) 9:00 段階的な文章産出授業による社会認識力育成の研究
 —認識力変容プロセスにおける協同学習の有効性—
 藤ノ花女子高校・早稲田大学大学院 井原 淑雅
- (2) 9:30 論争問題学習における教師の認識に関するフレームワークの構築
 岡山大学大学院 岩本 健
- (3) 10:00 教師のもつ社会科観と学級観／教師観、社会科授業実践との関係に関する探索的研究
 —和歌山市立A小学校の場合—
 和歌山大学 岩野 清美

- (4) 10:30 財政民主主義の担い手を育てる中等公民学習の授業開発
 ー分断社会問題を教材にしてー
 熊本大学 藤瀬 泰司
- (5) 11:00 コンテンツとコンピテンシーの両立を図る授業開発
 ー「生活(小)」の実践を手がかりにしてー
 関西福祉科学大学 馬野 範雄

【第10分科会】 F26 教室

司会者 東海大学 齊藤仁一朗 大阪教育大学 峯 明秀

- (1) 9:00 二重過程理論を導入した「公共」の授業モデル開発
 ー生命倫理を題材としてー
 広島大学附属中・高等学校 阿部 哲久
- (2) 9:30 情報アクセシビリティを手がかりとした「公共」の授業構想
 京都女子大学 石原 純
- (3) 10:00 各都道府県の主権者教育の取り組みの特質と課題
 ー持続的な政治参加意識形成の観点をふまえてー
 岡山大学大学院 原田 稚子
- (4) 10:30 選挙出前授業における課題点とその改革
 ー投票を軸とする授業デザインから社会形成力を育成するための授業デザインへー
 愛知教育大学大学院 小栗 優貴
 電気通信大学大学院 山田 風紗
- (5) 11:00 弁護士と協働する教師は自身の授業をどう変えていったのか
 ー中学校教師の社会科授業づくりに関する事例調査に基づく探索的検討ー
 福井大学 橋本 康弘
 立教大学・日本学術振興会特別研究員 PD 橋場 典子
 千葉大学 佐伯 昌彦

【第11分科会】 A1 教室

司会者 宮城教育大学 吉田 剛 同志社大学 奥野 浩之

- (1) 9:00 教訓に学ぶ歴史学習
 ー授業モデル「関東大震災と阪神淡路大震災」を事例としてー
 高水高等学校・同付属中学校 西村 豊
- (2) 9:30 災害から社会のしくみを認識する中学校歴史授業の開発
 ー近世における復興策を手がかりにー
 兵庫教育大学 山内 敏男
- (3) 10:00 アクティブリスクリカークの育成を目指した防災意志決定学習の研究
 ー高等学校地理Aを想定してー
 兵庫教育大学大学院 川野 将寛
- (4) 10:30 中学校社会科における領域をまたいだ単元構成の在り方への一考察
 ーため池を作った矢延平六の教材化を通してー
 香川大学教育学部附属高松中学校 池田 良
- (5) 11:00 中学校における経済概念学習の展開
 ー『社会科教育』の分析をもとにー
 大阪府立交野支援学校四條畷校 関本 祐希

【第 12 分科会】 A3 教室

司会者 花園大学 奥山 研司 兵庫県立芦屋高等学校 石川 照子

- (1) 9:00 歴史的思考力の育成を意図した中学校社会科歴史的分野の授業開発
ー複数の知識を総合する過程に着目してー
兵庫県教育大学大学院 藤田 朗人
- (2) 9:30 大内氏と東アジア世界
ー地域から考える世界史の授業ー
山口県立宇部西高等学校 藤村 泰夫
- (3) 10:00 複数の立場から因果関係を把握し、時代のしくみを捉える中学校社会科歴史授業の開発
兵庫県教育大学大学院 江上 弘毅
- (4) 10:30 中等歴史教育における方法批判学習
ー小単元「WW2、外から見るか？内から見るか？」の場合ー
広島市立舟入高等学校 山本 大貴
- (5) 11:00 小学校社会科におけるメタヒストリー学習の可能性
ー「お札の顔の昔と今」の授業実践を振り返ってー
山梨大学 服部 一秀
山梨県甲府市立池田小学校 神戸 博貴
山梨県甲府市立北西中学校 浅尾 和世
山梨県北杜市立小淵沢中学校 矢ヶ崎 憲
山梨大学大学院 小笠原 咲

【第 13 分科会】 C6 教室

司会者 宮崎大学 吉村功太郎 広島大学 川口 広美

- (1) 9:00 授業分析を生かした協働提案型社会科授業モデル
ーGTMAによる小学校社会科授業分析をとおしてー
関西福祉大学 小野間正巳
兵庫県姫路市立城乾小学校 長川 智彦
- (2) 9:30 多文化共生を目指したワークショップ型教育プログラムの意義と方法
ーファシリテーターの役割に注目してー
岡山大学 桑原 敏典
岡山大学大学院 楊 曉婷
- (3) 10:00 政治的自我を認知する政治学習の研究
広島大学大学院 神野 幸隆
- (4) 10:30 具体性と理由づけを組み込んだ授業仮説を中核とする社会科授業研究方法論の開発
ー小学校第5学年「米の生産量が多い地域の米作り」を事例としてー
兵庫県教育大学大学院・西宮市立用海小学校 恒吉 泰行
- (5) 11:00 政治的判断力を育成するための初等社会科授業構成に関する一考察
名古屋学院大学 菊池八穂子

課題研究発表（13：00～16：00）

課題研究 I（F16 教室）

社会系教科におけるカリキュラム・デザインのあり方

社会系教科教育は、これまで、そしてこれからも、「社会認識形成を通して、公民としての資質・能力の育成」を目指す教育として、その位置と意義を持つことができよう。

次期学習指導要領の方向性の中で、「公民」として必要な資質・能力を育むために、社会科・地理歴史科・公民科を俯瞰した「カリキュラム・マネジメント」という課題が指摘されている。そこで、「カリキュラム・マネジメント」のための考察課題として、以下の問いを立てることができるのではないかと。

- ① 誰が、主体となってカリキュラム（学校現場では、年間指導計画）を編成するのか。
- ② 社会系教科教育の目標をどのように体系化するのか。
- ③ 社会系教科教育の目標と結んで、何を学習対象・内容として選択し、学校の教育課程にどのように位置づけるのか。例えば「一学年の特定の教科・分野・科目等に位置づける」場合、「教科・領域等横断的に位置づける」場合、「学年縦断的に位置づける」場合が考えられよう。
- ④ カリキュラムに、学び方をどのように組み込んでいくのか。
- ⑤ 誰が責任を持って指導するのか。
- ⑥ カリキュラムをどのように評価し、改善していくのか。

本課題研究では、登壇者に小学校・中学校・高等学校段階の社会系教科カリキュラム編成の理論と実際をご提案いただき、上記の問いを参照しつつ議論していく中で、社会系教科におけるカリキュラム・デザインのあり方を探求していきたい。

コーディネーター

鳴門教育大学 梅津 正美

発表者

高等学校「社会科歴史」復権への手がかりとして

—「歴史総合」の研究開発を通して—

神戸大学附属中等教育学校 勝山 元照

持続可能な社会の形成に向けた中学校社会科三分野の連携

—社会的論争問題の探究を通して—

三重大学 永田 成文

教員自らが行うカリキュラム・マネジメントの実際

—大阪教育大学附属平野小学校を例として—

大阪教育大学 峯 明秀

社会系教科で実現する主体的・対話的で深い学びのあり方

次期学習指導要領では、求められる資質・能力を育むために必要な学びのあり方として、「主体的・対話的で深い学び」が求められている。この学びは、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点から捉えることができるが、それぞれの視点は一体として実現されなければならないとされている。しかし、それぞれの視点から社会系教科のこれまでの研究や実践を捉え直すとき、何が新たな課題として浮上するののかといったことや今後どのような取り組みが必要なのかといったことは、あまりはっきりしてしない。また、「深い学び」に関して、学びの「深まり」の鍵となるものが、社会系教科では「社会的な見方・考え方」となるが、これまでも社会系教科で重視してきた社会認識としての「社会的な見方・考え方」と同じものとしてよいのかどうかも明確ではない。

そこで、この課題研究では、以下のような観点から論議を深めたいと考える。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」をどう捉え、どう向き合うか。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」でこれまでの社会系教科の実践を捉えるとどのようなことが見えてくるか。
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」をこらからの社会系教科で実践するために何が必要か。こうした検討を通して社会系教科で実現する主体的・対話的で深い学びのあり方に迫りたい。

コーディネーター

京都教育大学 山下 宏文

発表者

深い学びの過程をめざす講義に関する考察

—教育実習の学びなおし：租税の授業を事例として— 岐阜大学 須本 良夫

社会科で育てる未来の創り手 課題を解決するプロセスを見通す力を育む単元の開発

—京都市立中学校教育研究会社会科部会の研究活動から—

京都市立栗陵中学校 上畑 直久

小学校社会科における「主体的・対話的で深い学び」とは

—第55回全国小学校社会科研究協議会研究大会奈良大会の提案を基に—

京都文教大学 橋本 祥夫